

第1回裾野市廃棄物減量等審議会 要旨

日時：令和6年6月11日 15:00～17:00

場所：裾野市役所 4階 402会議室

出席者：委員 9人（1人欠席）

事務局 環境市民部長、生活環境課長、他課員5人

傍聴：0人 報道：2社

1. 開会 司会進行：生活環境課長

2. 委嘱状交付

- 市長が各委員に委嘱状交付。任期は本日から2年間。

3. 市長あいさつ

4. 審議委員及び事務局職員紹介

- 各委員の自己紹介及び事務局の紹介

5. 会長及び副会長の選出

- 裾野市廃棄物減量等審議会条例第5条により、委員の互選により選任と規定。

事務局案を提示。→異議なし（拍手承認）

会長 鈴木正次 様（ごみ減量推進協議会会長）

副会長 田口健一 様（西地区区長会長）

6. 会長あいさつ

7. 諮問

- 市長が会長に諮問書を渡す。

【別の公務のため、ここで市長退席】

8. 審議

議事進行：会長

- 事務局が裾野市のごみ処理の状況及び裾野市一般廃棄物処理基本計画を説明。

（1）今後のごみ減量につなげる資源化の促進について

（主な意見）

- ごみ（一般廃棄物）の処理に想像以上に市のお金がかかっていることがわかった。
- 雑紙の分類は個人で実施することができる。ただし、紙紐、紙袋が非常に出しにくい。
- 紙類と衣類をリサイクルできれば、燃えるごみの減量につながると思う。
- シュレッダーごみが燃えるごみで出されている。資源化を進められないか。

- シュレッダーごみは細かすぎて、資源化に向かない認識があるのではないか。現在の市のルールでは、紙袋に入れる必要があるが、ビニール袋でも引き取ってもらえる業者があると思う。
- 他の自治体に先んじて住民のリサイクル・分別が進んでいけば、その関係の企業が進出してくる可能性があるのではないか。
- 衣類の拠点ステーションを知らない人が多い。PR をすれば増えるのではないか。
- ごみの出し方便利帳を作っただけではなく、定期的に市民に広報紙や広報無線などで周知しないと分別、資源化が進まないと思う。
- 市の拠点ステーションには車で付けられないので出しにくいと感じる。大きめの拠点ステーションを作れば資源化向上につながるのでは。
- コンポストの助成している市がある。生ごみの処理についてももう少し考えてもらいたい。
- 廃食用油のリサイクルを実施している自治体は少ないのではないか。そこは胸をはれると思う。
- 草や剪定枝を燃えるごみとして出すのではなく、自然に戻す方が Co2 の観点からも良いと思う。堆肥化を進める業者に出すのもいいと思う。
- 区長会の会議では、選定枝を粉砕する（チップにする）機械を市で購入して、区に貸し出せる仕組みを作ったらどうかという意見があった。

（２）ごみ処理の有料化の導入について

- 事務局が資料にて説明。
- （主な意見）
- ごみ袋の有料化はぜひ実施するべき。袋が安いので、年度代わりに教科書類、衣替え時期に衣類が燃えるごみで出されがち。有料化すれば資源ごみとして出すように移っていくと思う。
 - 三島市がメルカリで粗大ごみ販売を実施しているが、有料化すれば美化センターへの持ち込みの前に各個人がメルカリに出すなど努力するはず。
 - ごみとして出さなくてよくなる不用品活用バンクを広めるべき。
 - 市民系と事業系のごみの金額設定は、なるべく持ち込ませないという考えのもとどちらも同額に上げればいい。
 - 収集業者としては、事業系を何件分もまとめても、自分で持ち込みでも同じ料金なのは納得いかない。事業系で集めたのは少しくらい割り引いてもらってもいいのではないか。
 - これから審議会として意見を詰めていくにあたって、事務局には細かいデータ、資料を準備してもらいたい。

9. その他

- 今後のスケジュールについて
候補日を用意し、調整する。

10. 閉会